

ゼロカーボンシティを目指して

自然災害・海面上昇などの原因である地球温暖化は、日本だけでなく地球全体で解決すべき問題となっています。蒲郡市では、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにするまち「ゼロカーボンシティ」を目指します。

自然災害の増大と温暖化

近年、集中豪雨や季節外れの台風など、大きな被害が発生する自然災害が多くなってきています。記憶に新しいところでは、昨年7月に熊本県を中心に襲った集中豪雨。熊本県を流れる球磨川の一部は氾濫・決壊し、約千60ヘクタールが浸水、特別養護老人ホームでは浸水により14人が死亡するなど甚大な被害を生みました。

これらの自然災害の原因とされているのが、地球温暖化です。二酸化炭素が地球の周りを覆い、熱が宇宙に逃げにくくなることから地球の温度が上昇し、異常気象を引き起こします。暑い日が増え、春や秋の過ごしやすい季節が短くなってきているのも地球温暖化が影響しています。

世界の電力は、その多くが火力発電によって賄われており、それには二酸化炭素(温室効果ガス)の発生が伴います。産業革命を機に地球上では温室効果ガスの発生が活発になり、日本でも昭和中期の高度経済成長などを経て現在まで地球に負荷をかけてきました。また、本来発生した二酸化炭素は、

樹木が吸収することで地球上から減少するのですが、活発化した森林開発による樹木の減少から二酸化炭素量を減らすことができません。

今のままの生活を続けることに地球が悲鳴をあげている、まさにそのような状態に私たちはあるのです。

今を変える 目指せカーボンニュートラル

このままではいけない、と世界の国と地域で共通意識を持ち、パリ協定で産業革命以後の気温上昇を1.5度に抑えるという目標ができ、そのためには2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする必要があると考えられています。

日本は現在中国・アメリカ・インド・ロシアに続いて温室効果ガスを排出しており、全世界の3.2%(2018年)を占めています。この数字から見ても、私たちは行動を改める必要があります。

とはいえ、今の暮らしから江戸時代のような生活に急に変えることはでき

ません。温室効果ガスの排出をできる限り削減したうえで、それでも減らせない場合は森林・海洋などの吸収分を差し引くことでの実質ゼロ(カーボンニュートラル)を目指します。

